

## デザイン塾：知の統合としての“デザイン科学”とその応用

平成 24 年 8 月 1 日(水)、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館を会場として、日本デザイン学会 第 2 支部の 2012 年度活動：「デザイン塾：知の統合としての“デザイン科学”とその応用」が開催されました。本活動は、デザイン塾による主催、デザイン理論・方法論研究部会（DTM）、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会から成る「デザイン科学連合（Design Science Association）」、第 2 支部、および慶應グローバルCOEの共催により行われました。

はじめに、DTM主査の松岡由幸教授と慶應義塾大学の佐藤浩一郎特任助教より、細分化されたさまざまなデザイン領域に共通の基盤である「デザイン科学」と、それを広く社会へ発信するための「デザイン科学辞典」編纂に関する説明が行われました。同辞典は、掲載項目やさまざまなアスペクトに基づく検索キーワードを、随時追記・修正可能な成長型のシステムを特徴としており、その基本となるシステムのフレームワークが説明されました。また、Web 上での無料配布の形式をとる同辞典の閲覧を実演するとともに、執筆済みのコンテンツ（30 項目）の紹介が行われました。さらに、同辞典の編纂をはじめ、これまでデザイン塾の創設以来、先導されてこられた故氏家良樹先生の追悼の意を込めて、氏家良樹先生の功績の紹介も行われました。

つぎに、第 2 支部長浅沼より、デザイン科学の応用である「Mメソッド」とその事例適用に関する説明が行われました。また、DTMで議論が進められている「タイムアクシス・デザイン」に基づくサービスデザインをテーマとした講演が古郡了氏（マツダ株式会社）、Jaime Alvarez 特任助教（慶應義塾大学）により行われました。

さいごに、Mメソッドやタイムアクシス・デザインに基づく研究事例や作品の紹介が学生より行われました。

本活動においては、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会主査：村上存先生（東京大学）、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会主査：綿貫啓一先生（埼玉大学）をはじめ、デザインに関わる研究・教育者の方々（埼玉大学、千葉大学、東海大学、東京大学、慶應義塾大学）、実務者の方々（東芝、東芝テック、兵庫県立工業技術センター、フジ印刷株式会社、マツダ、GKテック）、学生を含む約 50 名の方にお越しいただき、知の統合としてのデザイン科学の可能性について活発な議論が行われました。



会場の様子



会場の様子



松岡由幸教授による故氏家先生の功績の紹介



学生による作品、研究紹介の様子



佐藤浩一郎の様子特任助教による講演の様子



浅沼尚氏の講演の様子